

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 24 年 6 月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

めだけ
女岳では噴気地熱域が引き続き確認されています。
火山性地震は少ない状況で、ただちに噴火する兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意してください。
平成21年10月27日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 2～3、6～7）

東北地方整備局が仙岩峠（女岳山頂の南約 5 km）に設置してある監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

6 月 15 日に実施した現地調査では、女岳北東側斜面の顕著な地熱域¹⁾の拡大は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器である。熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

・地震や微動の発生状況（図 4～5）

火山性地震は少ない状況が続いています。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 8～9）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(東) : 東北大学 (東地) : 東北地方整備局

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 7 月分）は平成 24 年 8 月 7 日に発表する予定です。

※この資料は、気象庁のデータの他、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用しています (承認番号 平 23 情使、第 467 号)。



図2※ 秋田駒ヶ岳 遠望カメラの映像（2012年6月30日09時00分頃）
 ・仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置してある監視カメラ（東北地方整備局）による。

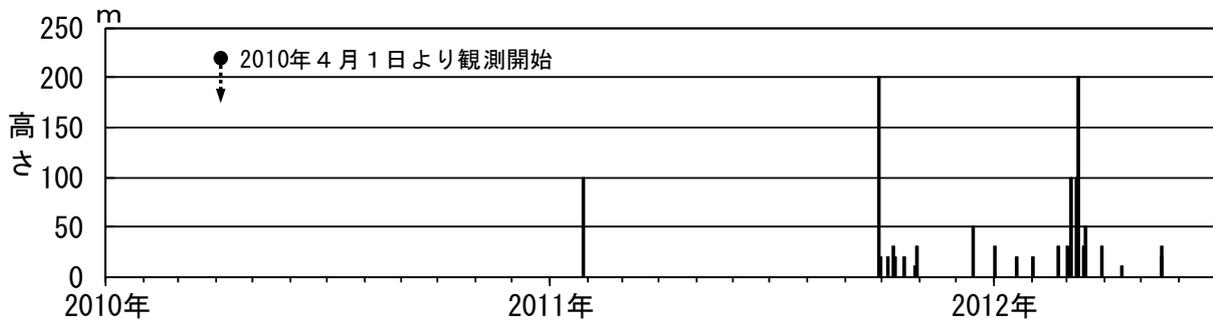


図3※ 秋田駒ヶ岳 日最大噴気の高さ（2010年4月～2012年6月）
 ・熊ノ台（女岳山頂の南西約5km）及び仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置してある監視カメラ（東北地方整備局）による。

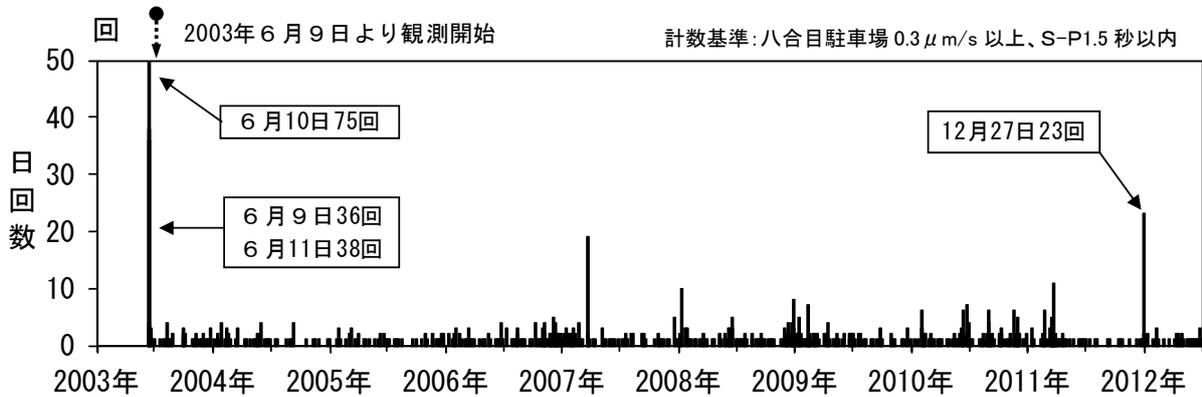


図4※ 秋田駒ヶ岳 日別地震回数（2003年6月～2012年6月）
 ・計測基準：2003年6月9日～東北大学秋田駒ヶ岳観測点（振幅 $0.5\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間1.5秒以内）
 2012年4月1日～八合目駐車場（振幅 $0.3\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間1.5秒以内）

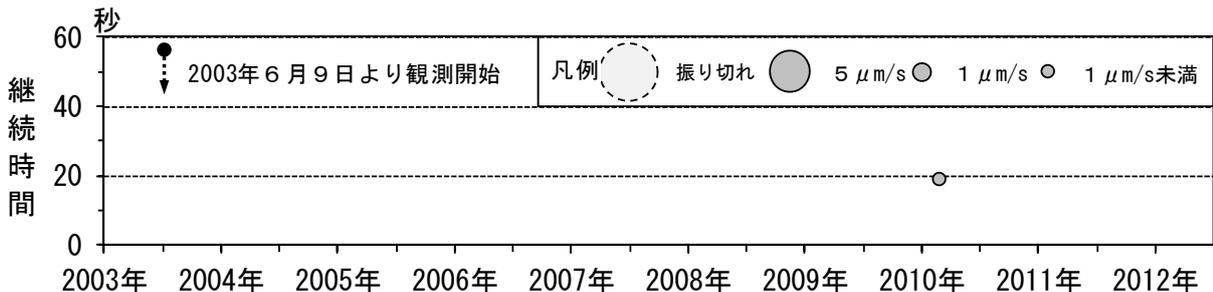


図5※ 秋田駒ヶ岳 微動の継続時間と上下動最大振幅（2003年6月～2012年6月）
 ・2003年6月9日から東北大学秋田駒ヶ岳観測点による。
 ・2012年4月1日から八合目駐車場に変更。

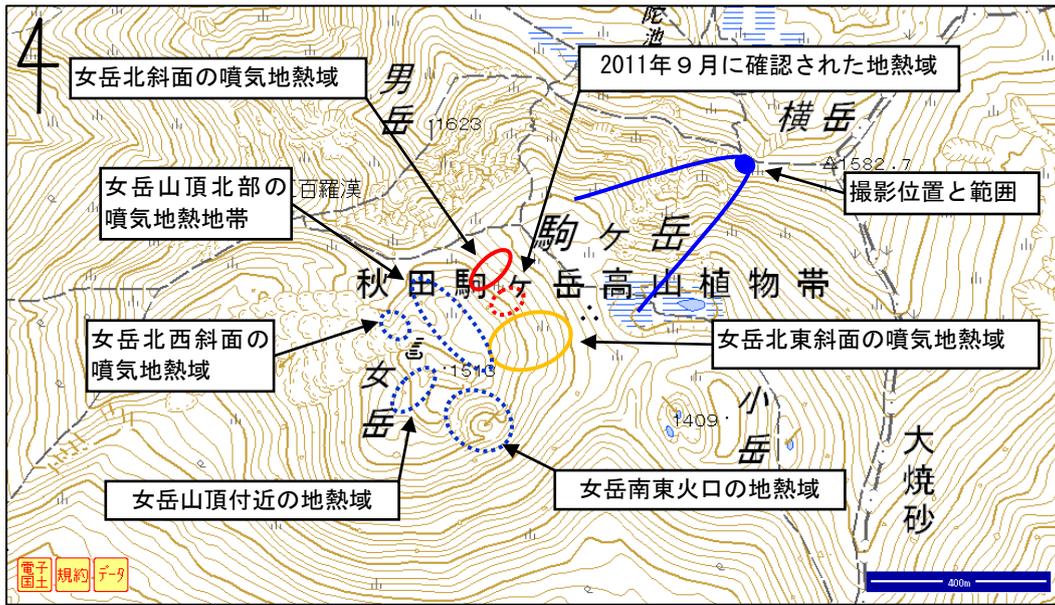


図6 女岳の地熱域の分布図及び可視画像と地表面温度分布¹⁾ 撮影位置

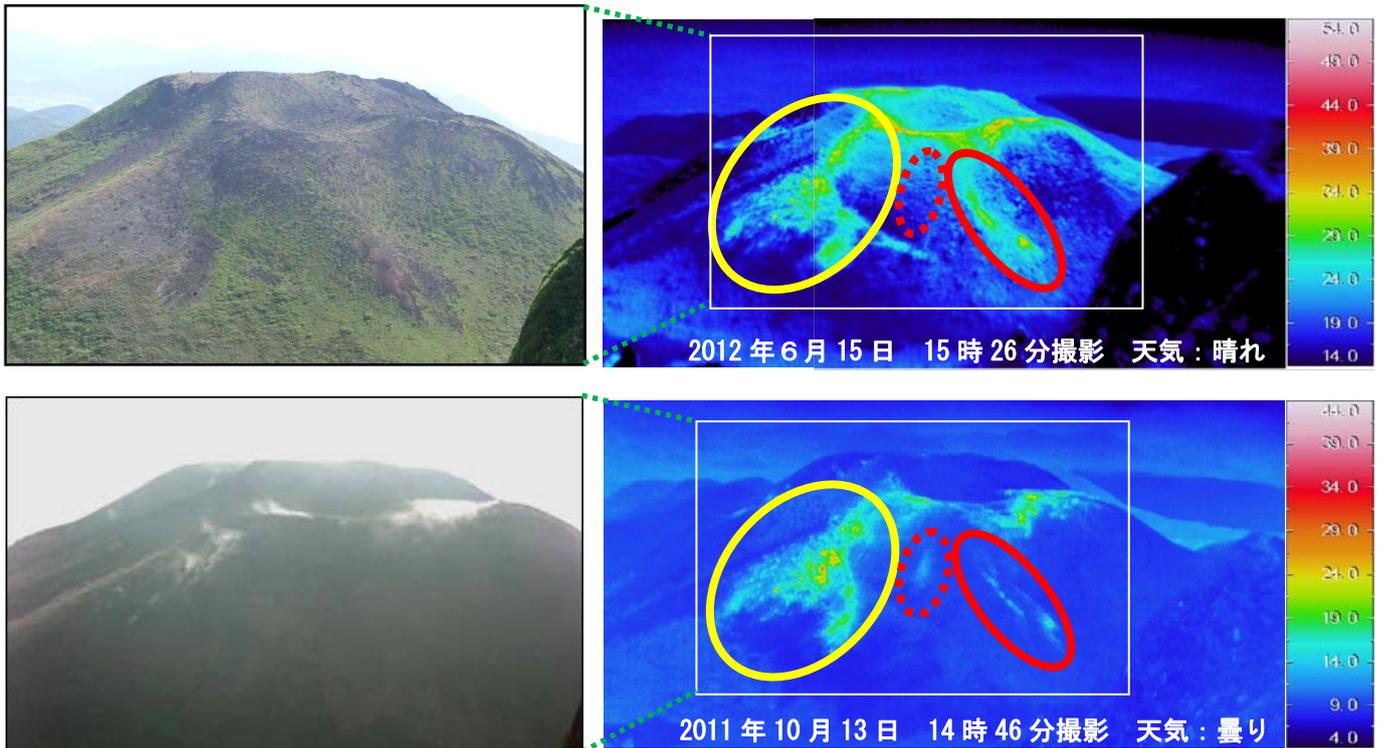


図7 秋田駒ヶ岳 女岳北東側斜面の可視画像（左）と地表面温度分布¹⁾（右）

- 上段：2012年6月15日撮影 下段：2011年10月13日撮影
- ・実線黄色囲みは、ほとんど変化が見られません。
 - ・実線赤色囲みは、やや拡大したように見えます。
 - ・2011年9月に新たに確認された破線赤色囲みの地熱域は、確認できなくなっています。
 - ・今月の撮影時は、晴天のために稜線付近を中心に日射の影響が含まれると考えられます。
 - ・女岳北東側斜面全体としては、顕著な地熱域の拡大は認められませんでした。

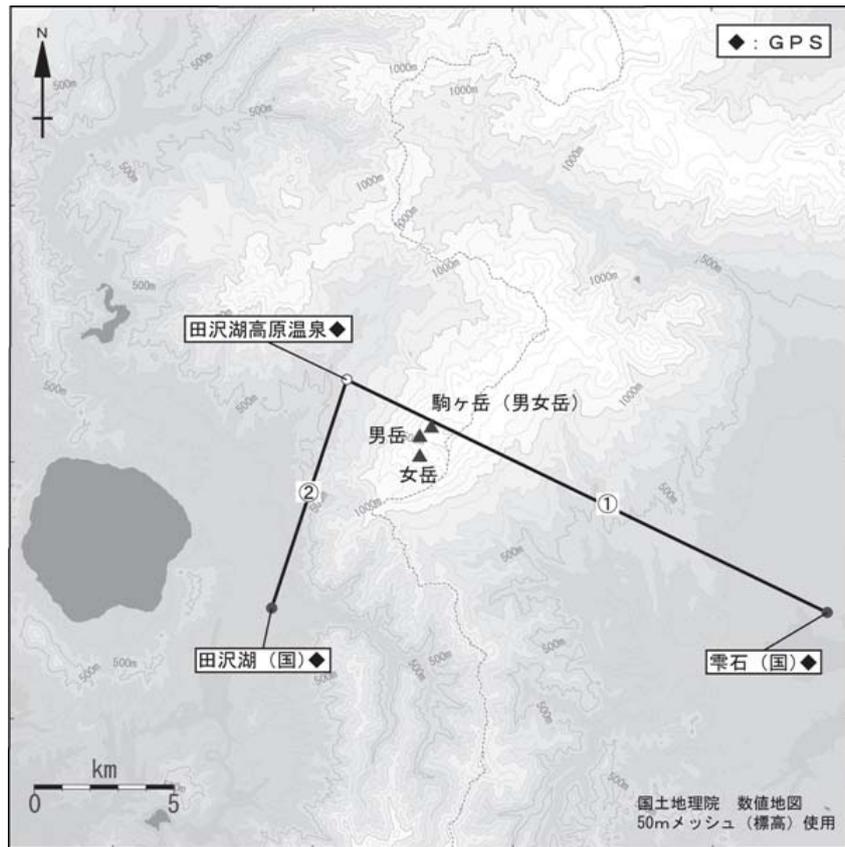


図8 秋田駒ヶ岳 GPS観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。（国）：国土地理院
GPS基線①～②は図9の①～②に対応しています。

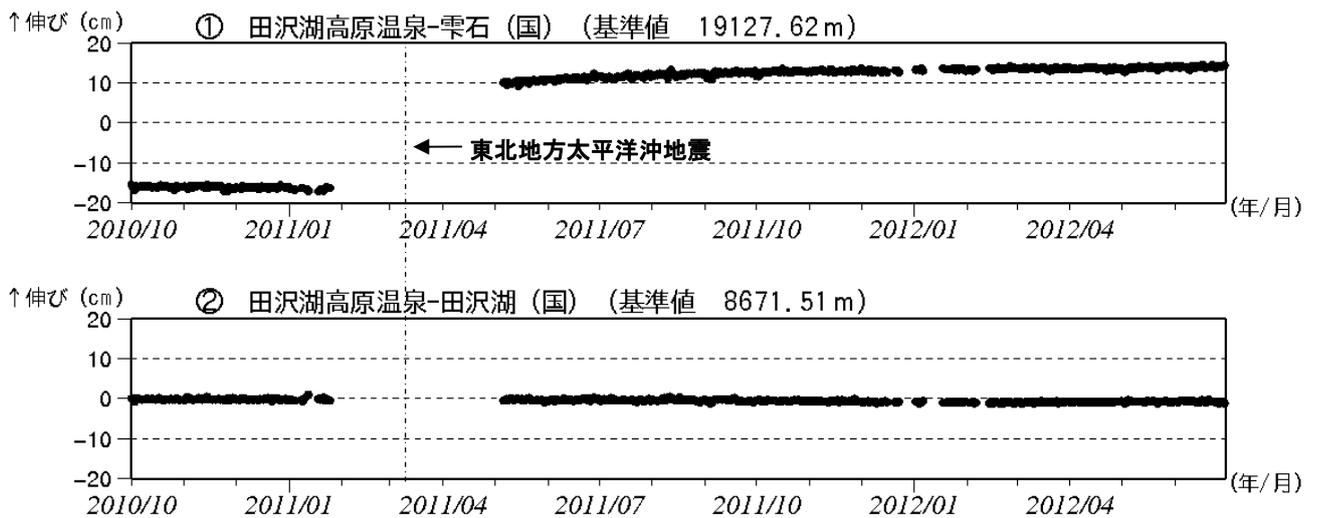


図9* 秋田駒ヶ岳 GPS基線長変化図（2010年10月～2012年6月）

- ・①の基線では、欠測期間中に東北地方太平洋沖地震によるデータの飛びがみられます。また、その後の変動は、東北地方太平洋沖地震による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。
- ・①～②は図8のGPS基線①～②に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。